団塊世代が大量退職する「二〇〇七年問題」に対応し、地場中小企業の新入社員に熟練者の技術を伝授する「長崎地域造船造機技術研修センター」が四日、長崎市香焼町の三菱重工長崎造船所香焼工場に開設され、一期生三十六人が入所した。

同センターは、造船業を支えた世代の大量退職で技術力の低下が懸念される中、個別対応が難しい中小企業の技術継承を進めるのが狙い。国の事業に基づく国内五カ所目のセンターとして、県内の中小造船関連三団体などが昨年十二月発足させた。同造船所の訓練施設を使い、新入社員を対象に毎年研修を実施する。

一期生は市内十二社の十八歳から二十八歳までの新入社員。四日は約百人が出席して開所・入所式が開かれ、同センターの井筒龍介会長（井筒

岩波書店と「集団自決」要請

「元指揮官側の主張のみな回答なし

三月三十日に公表された高校教科書の検定で、沖縄戦の集団自決に関し、日本軍の「強制」の記述が削除されたことについて、当時の日本軍指揮官と民事訴訟で係争中の岩波書店、作家の大江健三郎さんが四日、連名で「元指揮官側の主張のみ

のは安倍総理しかいない」と早期解決を訴えた。

面会には自民党の河村建夫政調会長代理らも同席。制度見直しに賛同する超党派の議員二百十二人の署名も提出した。

また集団訴訟の弁護団は、仙台訴訟と東京訴訟について、原告側がこの日までにそれぞれ控訴したことを明らかにした。

平和教育に取り組む被爆者の山川剛さんを熱心に取材するマッシモ・ベルサーニさん（中央）＝長崎新聞社

イタリア人報道写真家 長崎で被爆者を取材

8月9日 特集記事で紹介へ

イタリア人報道写真家のマッシモ・ベルサーニさん(四九)が来日し、長崎市内で四日、被爆者を取材した。長崎原爆の日の八月九日に、イタリアの地方紙リベルタ新聞で特集記事として紹介する予定。「長崎、広島で原爆が投下され、世界が変わった。被爆者のことを一人でも多くの人に知ってほしい」と使命感を燃やしている。

ベルサーニさんはイタリア北部のピアチェンツァ在住。妻で長崎市出身のオペラ歌手、豊島文さん(四三)の里帰りに合わせ、二〇〇〇年から来崎のたびに取材。リベルタ新聞でこれまでも写真、記事で被爆地長崎の〝今〟を伝えている。

この日、元小学校教諭で平和教育に取り組む被爆者の山川剛さん(七〇)をインタビュー。山川さんは「長崎に原爆を知らない子どもがいた。学校の先生は原爆について沈黙していた。それが私が被爆教師になった理由」と説明。

平和教育のポイントを

実習を通して基礎的な知識、技術を指導する。講師の一人で元造船マンの向潮さん(六五)は「四十年

長崎新

長崎新聞社は
を次の要領で募
(http://ww
/saiyo2008)
■募集職種　編
■採用人員　若
■応募資格　19
れ、4年制大
でに卒業見込
■応募方法
(1)申込期間
(火)＝郵
(2)提出書類
筆)＝履
報プログ